

地域の植物を利用した染織製品の開発

喜界島、屋久島、甌島に自生する植物を調査し、染料や織物素材として利用するための検討を行いました。

染色技術の検討や指導を実施し、それらの染色糸の染色堅ろう度試験を行い、その試験結果に基づき植物を選別し、商品化への検討を行いました。

未利用植物を利用してスカーフ、風呂敷、ランチョンマット、ポケットチーフ等の商品化を図りました。

また、先染製品として最も特徴ある植物（山桃、ビワ、ヨモギ等）を利用して織物を試作し、着尺地、服地、ネクタイ、名刺入れ等を商品化しました。

他に、喜界島のガジュマルを利用した和紙葉書、コースター等の商品化を図りました。

甌島地区においては、自生するフヨウを織物素材として利用した織物の復元に成功し、帯やテーブルセンター、テーブルクロス等の商品を作りました。

成果品の一部は、地域の素材を生かした製品として高い評価を受け、新ふるさと特産品コンクールで奨励賞を受賞しました。



屋久島の植物を利用した着物